令和７年産大豆技術情報　Ｎｏ．２

令和７年７月３日

秋田県北秋田地域振興局農林部農業振興普及課

中耕・培土で雑草対策の徹底と食葉性害虫に注意を！

１　生育概況（６月末現在）

○本年の播種作業は、６月15日前後に連続した降雨が発生したため、播種作業が遅れ、６月19日（平年差遅３日）が盛期となりました。

○６月２半旬に播種したほ場では、播種後の降水量が少なかったことから出芽ムラが見られたため、出芽本数は11.5本/㎡（管内６地点平均）（平年比87.8%）と少なくなりました。ただ、６月３半旬以降に播種したほ場では、播種後の高温傾向と定期的な降雨によって出芽は良好となっており、ほ場によって出芽本数に大きく差が見られています。

○６月末現在の生育（６地点平均）は、平年に比べ主茎長は長く（平年比107%）、葉数は多く（平年比＋0.7葉）なっています。

表１　６月末の調査結果（Ｒ７：６地点）

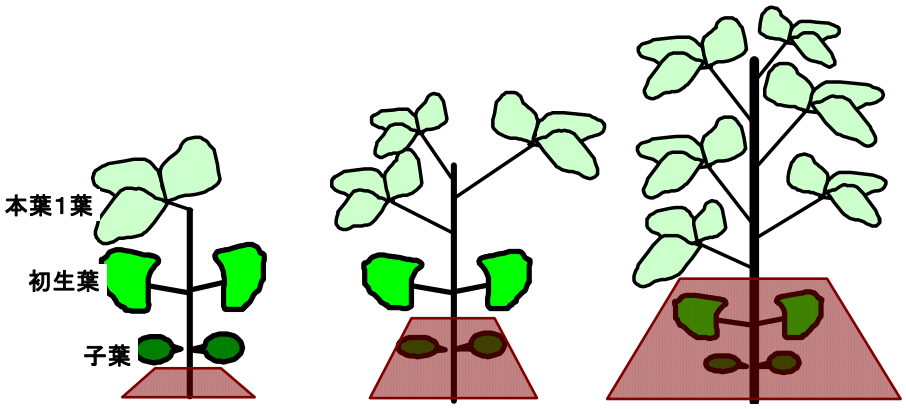
	主茎長(cm)	葉数(葉)
Ｒ　７	９．６	２．１
Ｒ　６	７．３	１．８
平　年	８．９	１．５
平年比	１０７%	＋０．７

※平年は、直近の５か年平均

２　中耕・培土

中耕・培土は雑草防除や湿害回避、倒伏抑制などの効果があり、大豆の生育向上を図る上で重要な作業です。図１を参考に適期作業を行い、生育量の確保に努めてください。

作業適期が梅雨時期に当たるため、天候に注意しながら適期作業を実施してください。



内容	中耕	培土（1回目）	培土（2回目）
実施時期	初生葉、本葉1葉が展開した頃	本葉2～3葉が展開した頃	本葉6～7葉が展開した頃
高さの目安	子葉が隠れない程度	初生葉が隠れない程度 （子葉が隠れる程度）	本葉1葉目の節が隠れない程度 （初生葉が隠れる程度）

図1　大豆の中耕･培土の作業適期

３　除草対策

当面の雑草防除は中耕・培土により行いますが、中耕・培土で雑草を抑えられなかった場合などは、大豆生育期処理除草剤を使用します。除草剤の種類により使用可能な時期が異なるので、使用基準に注意してください。

対象雑草	農薬名	使用時期及び使用薬量（mL/10 a）	希釈水量（L/10 a）
イネ科雑草	ナブ乳剤	ノビエ３～５葉期　(150～200)	100～150
	ワンサイドＰ乳剤	〃　３～５葉期　(75～100)	70～100
	ポルトフロアブル	〃　３～８葉期　(200～300)	100
広葉雑草	大豆バサグラン液剤※1	だいずの２～６葉期　(100～150) [雑草の生育初期～６葉期、草丈45 cm]	100
	アタックショット乳剤※2	だいずの４～６葉期　(30)	100

※１：適用品種はリュウホウとする。ツユクサやエノキグサ、アカザ等には効果が劣るため発生草種に注意する。また、大型化したタデ類には除草効果が劣る。

※２：気象条件等により薬害を生じる恐れがあるため、使用上の注意をよく確認する。

４　排水対策

○これから本格的な梅雨の時期に入ります。湿害を回避するため、降雨後に停滞水が速やかに排出されるように、排水溝同士をつないだり、水尻を深く掘り下げる、明きょを補修するなどの対策をとってください。枕地の畝が排水を妨げるような場合は、畝切りを行い排水路を確保してください。

○排水後は中耕・培土や雑草対策を行い雑草害の回避に努めてください。

５　病害虫対策　　ほ場をよく観察してください！

○６月末の調査では、生育が進んでいるほ場で、害虫による食害がみられました。また、令和７年６月24日発表の農作物病害虫発生予察情報では、食葉性鱗翅目幼虫(ツメクサガ等)の発生はやや多いと予想されています。ウコンノメイガは、発生時期、発生量ともに平年並と予想されていますが、急激に発生量が増加する場合もあることから葉巻の状況をよく観察してください。

○気温が高い場合、害虫の発生が増加する傾向にあります。仙台管区気象台発表の１か月予報（６月26日発表）によると、東北地方日本海側では気温がかなり高くなると予想されています。今後の病害虫の発生状況に注意し、ほ場をよく観察してください。

（１）ツメクサガ

○第１世代幼虫は６～７月に発生し、葉脈を残して葉を食害します。第２世代幼虫は８月に発生し、葉及び莢も食害し収量が低下します。

○老齢期になると防除効果が劣るため、幼虫の発生初期（若齢期）に防除しましょう。

薬　剤　名	希釈倍数	散布量	使用時期
エルサン乳剤	1,000倍	100～300	6月中旬～7月中旬
トレボン乳剤	〃	Ｌ/10 ａ	8月上旬～中旬
フェニックスフロアブル	4,000倍		
ブロフレアＳＣ	〃		

ツメクサガ幼虫

（２）ウコンノメイガ

○成虫は主に長距離移動により飛来・侵入します。幼虫は葉縁を巻き込み、その中で葉を食害し、次の葉に移ります。老熟した幼虫は巻いた葉の中でう化します。

○被害は７月中旬以降に発生しますが、７月６半旬にほ場全体で40～60茎の葉巻数を調査し、１茎当たり葉巻数が1.3個以上あると減収するため、防除を行ってください。

ウコンノメイガ幼虫

薬　剤　名	希釈倍数・10 aあたり散布量		使用時期
スミチオン乳剤	1,000倍	150～300	7月下旬～8月上旬
トレボン乳剤	〃	Ｌ/10 ａ	
カスケード乳剤	4,000倍		
プレバソンフロアブル５	〃		

葉巻きの様子

農作業中に熱中症になる人が増えています。対策を十分に行い、熱中症を防ぎましょう。

＊内容についてのお問い合わせは、農業振興普及課（Tel　0186-62-1835）へご連絡ください。